

平成30年度 佐賀県農業大学校 評価表

教育目標	〇 高い技術力や経営力を備えた意欲的な農業者等の育成 〇 農業・農村の発展に貢献できるリーダー等の育成		〇達成度				
重点目標	1.できるだけ多くの優秀な入学者の確保 2.高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上 3.全ての学生の進路決定 4.社会人からの就農者の確保 5.農業者研修の充実		A:十分達成できている(100%以上) B:概ね達成できている(100%未満～80%以上) C:やや不十分である(80%未満～60%以上) D:不十分である(60%未満)				
目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 できるだけ多くの優秀な入学者の確保	・受験者数	・受験者50名以上	〇農大の情報の提供 ホームページを各専攻月1回以上更新 講義・実習等の週1回以上の写真撮影 校内でホームページ操作研修会の開催 〇各機関・団体への周知 全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙に学生募集の掲載依頼 県広報紙への掲載 全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付 農大の募集説明会への参加 10校以上 高校への進路ガイダンスへの参加 10回以上 地区別懇談会や同窓会組織を活用した学生募集	〇受験者は、40名 ・ホームページは概ね毎月1回更新した。 ・農産物直売や実習等週1回の撮影した。 ・全てのJA、市町、農業委員会へ掲載を依頼した。 ・各普及センターの広報紙に掲載を依頼した。 ・全ての高校へ募集要項・ポスターの配布、志願希望者数の聞き取りを行った。 ・募集説明会を開催した。 ・農業系高校を中心にガイダンスに参加した。 ・PR用資材をガイダンスやオープンキャンパスで配布した。 ・地区別懇談会で学生募集のPRを行った。	B	・多くの受験者を確保できるよう高校との連携及び広報活動に力を入れる ・各機関・団体との連携強化及び情報共有	・テレビを利用したPR効果が高いのではないかと。
	・オープンキャンパスの参加数	・オープンキャンパス参加者40名以上	〇農業系高校等との連携強化 農業系高校連絡会議の開催 2回 オープンキャンパスの開催 3回 在校生との交流会の実施 〇農大の情報の提供 ホームページを各専攻月1回以上更新 講義・実習等の週1回以上の写真撮影	・農業系高等学校長との連絡協議会を開催した。 ・農業系高校を中心に募集説明会を開催した。 ・オープンキャンパスを開催した。 ・オープンキャンパス時に在校生との交流を行った。 ・ホームページは概ね毎月1回更新した。 ・農産物直売や実習等週1回撮影した。	A	・1,2年生からも農大に関心を持ってもらえるようオープンキャンパスの参加を幅広く呼びかける	

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
1 できるだけ多くの優秀な入学者の確保			<ul style="list-style-type: none"> ○各機関・団体への周知 全てのJA、市町、農業委員会へ、広報紙にオープンキャンパスの掲載依頼 県広報紙への掲載、広報媒体を活用したPR 全ての高校訪問、募集要項、ポスター等の配付 	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのJA、市町、農業委員会へ掲載を依頼した。 ・各普及センターの広報紙に掲載を依頼した。 ・全ての高校へ募集要項・ポスターの配布、志願希望者数の聞き取りを行った。 ・県広報誌へ一般入試(1次・2次)募集を掲載した ・県の広報番組で、オープンキャンパスへの参加を呼び掛けた ・全ての高校へ募集要項・ポスターの配布、志願希望者数の聞き取りを行った。 	A		
	・GAPの専門科目化	・GAP技術の習得	・GAP教育のカリキュラム化に向けた検討	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム検討を随時行った。 ・GAP指導員養成研修へ職員を参加させた。(3名) ・専門技術員を講師に校内でGAPの研修を実施した。 ・県主催の県内地区別GAP研修へ参加した。 ・校内で県主催による県関係機関を対象にした研修会を実施した。 	A	・全ての専攻指導職員がGAP指導員養成研修を受講する	
	・専修化	・専修化カリキュラムの確立(H31年度入学生)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学、関係機関との調整 ・日本学生支援機構への認定校申請 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀大学との調整を行った。 ・平成31年度からのカリキュラム見直した。 ・日本学生支援機構奨学金の対象学科認定を受けた。 ・既に対象となっている施設に奨学金の申請事務等の手続きを調査をした。 	A		

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	・高い技術力や経営力の習得	【農産・露地野菜】 ○栽培管理技術の習得 ・播種から収穫までの栽培管理技術の習得 到達した学生の割合80%以上 ※	・栽培圃場における日頃からの観察の実施と栽培管理日誌の記帳 ・学生による栽培暦の作成 ・農業試験研究センターの関連研究担当における現場実習(3回以上) ・農業試験研究センターとの連携によるプロジェクト課題の実施(2課題) ・専門的知識に関する勉強会の実施 2回 ・新規品目や品種の導入及び試作(2品目)	・実習では栽培日誌やノート等の記帳を行わせた。 ・卒論の品目について栽培暦や防除暦の作成させた。 ・病害虫研究室、野菜研究室、作物研究室等へ最新の研究の現場講義や視察を行った。 ・農試の作物栽培研究室除草剤試験ほ場、麦類作況ほ場、作物育種研究担当、麦類品種比較圃場を定期的に観察した。 ・農業技術検定2級試験の勉強会の実施 ・水稲では新品種「つや姫」、酒蔵好適米「山田錦」、小麦ではパン用「はる風ふわり」を卒論実験として、生態と栽培技術を検討した。 ・ホワイトスイートコーンを新たに導入した。	A	・すべての学生が基本的な栽培技術、機械操作の習得 ・GAPの取り組みにより生産工程管理の見直しを行う。 ・KSASやWAGRI等のほ場管理システムについて学ばせる。 ・ドローンについて現地講義または外部講師による講義を実施する。	
		○農業機械の基本操作と維持管理方法の習得 ・一連の作業が機械で出来る到達した学生の割合80%以上※ ・主要な農業機械の作業点検等ができる 到達した学生の割合100% ※	・実習時間内における農業機械の操作実習年間10時間以上 ・トラクターやコンバイン等、主要な農業機械の作業点検方法の実習	・ドローンについて農業試験研究センターにおいて現地講義を実施し、基礎的な運転操作や利用について学ばせた(2年生全員)。 【農産】 ・トラクタ耕うん代かき、田植機での移植、及びライスセンター機器の基本的な整備と操作が出来るようになった。	A		
		○経営管理能力の向上 ・水稲を中心とした栽培技術及び経営評価の実施 経営評価方法の習得到達した学生の割合100% ※ ・タマネギを中心とした経営評価の実施 経営評価方法の習得到達した学生の割合100% ※	プロジェクト課題における水稲の省力・低コスト栽培技術、及び環境保全型農業について、経営分析と販売戦略(直売の活用)を検討する。 ・30年産タマネギの経営分析及び29年産との比較検討	【農産】 ・水稲の省力・低コスト技術として「さがびより」の乾田直播、環境保全型農業として「つや姫」の減農薬の特別栽培の実証を行った。 ・経営分析および生産物の販売を実施した。 【野菜】 ・玉葱の昨年と今年度の経営分析を行うことにより実際の経営に近い現状を習得を行った。	A		

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	・高い技術力や経営力の習得	【施設野菜】 ○栽培管理技術の習得 ・環境制御技術の習得できる学生の育成 80%以上 ※	・作業日誌の記帳確認 ・IoT機器を活用した環境管理 ・天気予報を活用した環境設定の指導 ・環境制御ハウスへの導入品目の拡大	・毎朝学生に観察させて講師の考えと突き合わせて検討し、作業日誌を記帳させて、観察に基づいた管理の意識づけを行った。 ・環境測定機器の取り扱い方法及び活用方法を実習時間内に実際の機器を使って教え、学生はスマートホンを活用して圃場にはいる時も見ることができた。 ・ハウス内環境と気象が生育にどう影響を与えているか、実際の生育を見せながら指導し、高夜温の時にはカーテンを開けておく等の設定が自分ですることができた。 ・環境制御ハウスに、これまでの施設キュウリに加えて施設トマトを導入した。	A		
		○経営能力の向上 ・担当する品目の収量及び所得の把握ができる 到達した学生の割合 80%以上 ※ ・農業簿記による経営管理手法の習得	・日常の収支記帳確認 ・指導機関(農技防、農試)からの指導助言 ・農業簿記の理解を深めるためのゼミ・研修会開催 ・農業簿記検定の過去問の活用	・卒論指導の中で記帳分析による所得算出の指導助言を行い、実際の支出に基づく収支の計算が出来るようになった。 ・プロジェクト課題設計検討会と中間検討会を1回ずつ開催し、専門技術員と試験研究員から助言を受けて、効率的・効果的な研究に取り組めた。 ・インターネット、統計資料等の利活用を図るゼミ等を5回開催済み。 ・夏季のゼミや研修会、過去問活用で、農業簿記の知識を深めた(5回開催)	A		
		【花き複合】 ○花き栽培に関する基礎知識の習得 ・主要花きの育苗から収穫までの一連の栽培技術の基礎知識を習得到達した学生の割合 80%以上 ※	・作業日誌の記帳確認 ・主要栽培品目の、播種、育苗から栽培、収穫まで一連の生育、作業の指導 ・季節ごとのハウス管理の指導 ・農業技術防除センターや農業試験研究センターからの支援	・主要品目ごとの基礎的な生理生態の指導を行ったり、作業日誌の記述で理解度を確認した(毎週1回)。 ・季節ごとのハウス管理技術を指導した。 ・卒論プロジェクトの課題について、農業技術防除センターや農業試験研究センターから情報提供等を受け、現地課題解決に沿って課題を立て、試験を行った。	A		
○花き栽培に関する栽培技術の習得 農薬・液肥散布用機械の操作の習得到達した学生の割合 80%以上 ※ ・作物及び生育ステージに応じた栽培技術を習得した学生の割合 80%以上 ※	週1回の定期防除散布での機械操作習得のための研修及び散布農薬の選定等の指導 ・作物ごとの栽培を行うため基礎的技術の指導 ・収穫後の花きの鮮度保持技術、フラワーアレンジメントなど加工等による流通、消費技術の指導	・小型管理機、動力噴霧機等、基本的な機械操作取得のため機械研修を行った。 ・品目の病害虫の指導、農薬散布方法、液肥管理の基礎知識を指導した(月1回)。 ・主要品目の栽培中の定植から管理、収穫、収穫後までの一連の作業の指導を行った。 ・栽培のみならず、消費、流通、販売の指導と収穫後の鮮度保持、フラワーアレンジメント等の加工、直売や収穫祭を通して消費動向の学習指導を行った(月2回)	A	・主要品目ごとの栽培管理等を自ら考えて管理を行い、下級生の指導ができるようにする。	・基本技術の習得はもちろんのこと環境制御技術等の先端技術の充実に努めていきたい。		

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント	
2 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	高い技術力や経営力の習得	【果樹複合】 ○主要常緑・落葉果樹の生理生態の習得到達した学生の割合80%以上 ※	・専門誌および栽培管理雑誌による学習の強化 ・栽培管理記録簿を作成し特記事項を整理・記録 ・品目毎に質疑を実施し習熟度を確認 ・経営会議および実習終了後に気づきおよび感想を整理・確認	・「佐賀の果樹」、「果実日本」等を用いて理解を深め、栽培管理法を学習した。 ・記帳簿を確認し指導した。 ・品目毎に圃場で質疑を行い習熟度を確認した。 ・実習後に記帳および報告を受け、確認した。	A	通常の果樹生産技術に加え、入学時よりプロジェクト研究のための樹種を決定し、それに向けた栽培管理・販売まで一貫して取り組ませる。		
		○果樹の高品質・安定生産技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	・1年生時から進路に合わせた担当品目を設定 ・生育調査、果実分析、土壌診断等の実施 担当品目は生産から販売までの一貫体制を指導 品目改善点の検討 ・果樹試験場で高度な実習のを実施	・就農時に合わせた品目を管理させた。 ・生育調査を10日毎に、品質調査を月1回実施し、生育ステージごとの育成状況を学習させた。 ・担当者自ら品目を管理、記帳し、直売では果実品質に見合う価格を担当者に検討させた。 ・収穫後、栽培管理や商品づくり・販売の問題点および改善点について確認し、独自の栽培暦を完成させた。 ・根域制限栽培法や隔年交互結実栽培技術法等を習得できた。	A			
		○経営能力の向上・果樹経営特性の理解到達した学生の割合80%以上 ※	・労働時間、使用資材、収量、販売金額等についての記帳 ・統計資料等と比較し問題点を整理する ・経営改善点の検討	・担当品目の経営記帳をさせた。 ・労働時間、必要経費、収量、販売金額等を統計等の資料と比較し専攻の現状を学習させた。 ・収穫後、総合的に経営改善点を整理させ、次年度の改善点について検討させた。	A			
		【畜産】 ○家畜の性周期、発情兆候、繁殖生理の学習と繁殖技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	・発情観察やホルモン処理による人工授精の実施 ・繁殖牛、繁殖豚の発情観察記録表の作成 ・家畜人工授精講習会の受講 ・妊娠期間の調査 畜産試験場での実習実施 30回/年以上	・人工授精を牛6頭、豚で2頭に実施した。 ・発情兆候の観察に基づき、繁殖カレンダーに記帳した。 ・超音波診断装置を用いた子宮の状態を観察した。 ・AI講習会に2年生2名が受講。(2名合格) ・試験研究機関や農協などの協力を得て妊娠期間について調査し卒論としてまとめ、実際の管理作業に活用している。 ・畜試での実習は2年生が30日間、1年生が20日間実施し、農大では体験できない技術(ET等)について学んだ。	A			・畜舎等の有効活用を考慮して、計画的な分娩、育成をしていくことが必要。 ・計画的な堆肥の圃場還元と他の専攻への供給を行う。 ・衛生管理に関する指導の強化が必要。
		○家畜栄養の学習と飼料給与技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	・飼料給与と基本プログラムに基づいた飼料給与の実践 ・発育状況把握のための体測実施 毎月 発育状況確認のための子牛セリへの参加 ・畜産試験場での実習実施 30回/年以上	・プログラムに基づいた飼料給与を実践をしている。 ・毎月、発育状況を確認するための体測を実施し、その結果を卒論としてまとめた。 ・子牛セリに参加し、農大で育成した子牛3頭を販売した。 ・畜試での実習は2年生が30日間、1年生が20日間実施し、農大では体験できない技術(TMR給与等)について学んだ。	A			
		○家畜ふん尿処理技術の学習と堆肥化技術及び関連作業機械操作の習得到達した学生の割合80%以上 ※	・堆肥舎での堆肥化処理と圃場還元の実践 ・ローダーやマニウスプレッタ等の作業機械を用いた作業実習の実施 ・堆肥化に伴う堆肥の温度変化観察の実施 畜産試験場での実習実施 30回/年以上	・堆肥舎で家畜ふん尿の堆肥化処理を実施し、飼料作物の圃場還元を実施した。 ・生産した堆肥の圃場還元及び他専攻へ供給した。 ・ローダーやマニウスプレッタ等の作業機械の操作方法の習得が出来た。 ・堆肥の温度変化等の観察を実施し、良質堆肥生産技術を学ぶことができた。 ・畜試での実習は2年生が30日間、1年生が10日間実施し、農大ではできない技術(機械式発酵施設の稼働等)について学んだ。	A			
		○飼料作物栽培の学習と飼料生産技術及び関連作業機械操作技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	・夏作、冬作の飼料作物栽培実践 ・耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する作業実習の実施 ・飼料作物生育状況の観察の実施 ・畜産試験場での実習実施 30回/年以上	・イタリアンライグラス及びスーダングラスの栽培を実施し、飼料作物の栽培技術習得ができた。 ・耕起、施肥、播種、収穫、調整に関する作業について習得させた。 ・飼料作物の生育状況について観察を実施した。 ・畜試での実習は、2年生が30日間、1年生が20日間実施、農大ではできない技術(大型機械での収穫作業等)について学んだ。	A			

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
2 高い技術力や経営力の習得、資格等の取得向上	・高い技術力や経営力の習得	【農産加工】 ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識の習得 ・穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術の習得到達した学生の割合80%以上 ※	○漬物、惣菜、ソース、菓子、製粉・乾燥・レトルト等の加工等演習の実施 (1年生) ・食品衛生及び野菜・果実・穀類等を使った食品加工に関する基礎的な知識・技術習得のための演習の実施 (2年生) ・農産物の食品加工技術及び商品づくりの基礎知識、包装・ラベル作成等を習得するための演習の実施	○穀類・野菜・果実・畜肉等の加工技術習得ができた。 ○農畜産加工及び商品づくりの基礎知識習得ができた。(1年、専科) ・食品衛生法や食品表示に関する基礎知識の習得。 ・加工演習は一次加工を中心に実施、13品目の加工製造。 ・シーラー機やカップシール機等の基本的な機材操作。 (2年) ・レトルト等のより高度な2次加工技術の演習を実施、13品目の加工製造。 ・真空包装機やレトルト殺菌機等の高度な機材の操作方法等について指導。	A	・売れる商品づくりに向けた技術習得の向上を目指す。 ・より安心、安全な商品づくりを目指すため、食品衛生の管理方法等を充実強化する。	
		○学生発案によるオリジナル商品化 1商品以上	・農産加工研究会による試作研究への指導 学生の提案を基に、農大産の農作物を利用した商品設計 ・直売での販売動向の把握及び分析	○農産加工研究会による試作研究 ・学生の提案をもとに、農大産の農産物を利用した試作研究の指導。 ・加工技術支援及び消費者意向調査方法等について指導。 ・学生発案によるオリジナル商品化に向け技術指導。直売等において生産・販売を11品目行った。 ・直売での販売動向の把握；製造・販売・製造物品質検査記録の記帳の実施による販売動向の把握を行うための記帳指導。	A	・オリジナル商品の定番化を目指す。	
	・資格等の取得向上	○カリキュラムの中で必要な資格の合格率100% ※大型特殊免許、けん引免許、家畜人工授精師等 ○選択性の資格の合格率 50%以上 ※農業技術検定、危険物取扱者、家畜商、ボイラー、フォークリフト	○研修の充実 ・受講期間中、合格レベルに達しない者には、適宜補講を行うなどして免許取得レベル向上の指導を実施 ・資格や免許に対応した特別講義の開催 ・小テストの実施及び解説 ・過去問題を活用した指導	○必須の免許・資格の取得状況 ・農耕用大特免許(1年生:21名、専科生:2名) ・農耕用けん引免許(2年生:24名、専科生:1名) ・家畜人工授精師(2年生:2名) ○選択性の免許・資格の取得状況 ・農業技術検定2級(2年生:9名、1年生:1名) ・農業技術検定3級(2年生:14名、1年生:10名) ・危険物取扱者(2年生:16名、1年生:0名) ・毒劇物取扱者(2年生:5名、1年生:0名) ・フォークリフト(2年生:24名1年生:21名受講) ・小型車両系建設機械(2年生:8名、1年生:5名、専科生:1名) ・ボイラー(2年生:16名、1年生:6名) ・狩猟免許(2年生:8名、1年生:0名) ・家畜商(2年生:2名、1年生:0名) ・特別講義の開催、過去問題を活用した指導等を実施した。	B	・合格率向上のための支援体制を整備する。	

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
3 全ての 学生の 進路 決定	・進路決定率	進路決定率100%	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導の強化 ・進路指導を行う専任職員の配置 ・社会人としてのキャリア教育の実践 5回 ・農業次世代人材投資事業(準備型)の支援 ・先進農家(農業法人を含む)視察研修の実施 3回 ・若手農業者との意見交換会の開催 2回 ・農業大・農大での農業法人、企業等の会社説明会の実施 10回 ・ハローワークとの連携 5回 ・求人情報の提供 随時 ・インターンシップの積極的推進 ・1年生からの進路指導の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路決定率 100% ・進路指導専任職員(非常勤)の配置 ・2年生を対象にキャリアプランニングの講義 4～6月に5回 ・1年生を対象に年度末にキャリアプランニング講義を実施。 ・会社説明会の開催 (4社) ・求人情報の提供 63社 ・ジョブカフェ佐賀と連携した進路指導の強化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先のOB訪問による状況把握と求められる人材を育成する。 ・就職対策の前倒しを実施する。 	

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
4	社会人のか確保の就農者 ・受講者の満足度	・社会人のための就農講座受講者の満足度満足:80%以上	・受講者のニーズを把握しながら、就農に必要な技術・知識習得のための研修内容の企画(講義聴講やほ場実習、集合研修、先進農家研修) ・受講者の就農に向けたアドバイス	・社会人のための就農講座受講者の満足度 基礎講座:100% 「基礎講座」 ・基礎講座は3日間の日程で11月と2月に開催し、11名が受講した。 「実践講座」 ・実践講座は、1年間を通して、5名が受講し、学生の講義聴講や専攻ごとのほ場実習、集合研修などを行った。 ・既に2名が就農し、3名が農地を確保して準備を始めている。	A	・基礎講座は、受講しやすい実施体制などを検討する。 ・実践講座は、農業改良普及センターなどと連携した就農支援を行う。	
5	農業者研修の充実 ・大型特殊(農耕車)、農耕用けん引の免許取得	・受講定員枠の充足率100% ・免許合格率 大型特殊(農耕車):98%以上 けん引(農耕用):95%以上	・受講待機の状況に併せた研修コースの設定 ・研修の受講辞退者にも対応した受講者の調整 ・操作技術(特に、けん引)の指導方法の工夫	・受講定員枠の充足率:98% 農耕用大特は10回、農耕用けん引は6回開催し、302名に対して受講決定した。 ・免許合格率 農耕用大特 :98.5% 農耕用けん引:96.6% ・動画や機械模型を活用など指導方法を工夫し、各受講者に合った指導、操作技術が未熟な受講者に対する補習を随時行った。	B	・市町との連携を強化して、受講決定後の受講辞退者が出ないようにする。 ・一年間を通じて農耕用大特と農耕用けん引を交互に行うことにより、さらに受講しやすい研修日程にする。	
	(佐賀農業経営者スキルアップ研修) ・受講者数	・受講者数(定員の確保) 4コース 40名	・農業者、青年農業者、農業青年クラブ員、昨年度の受講者、市町、JA青年部等への周知徹底	・周知の徹底 プロモーションビデオの活用やDM送付、農業者会・青年農業者会等の会合の折にチラシを配布、新聞掲載(夏季・冬季ともに2社)、HP掲載などで周知徹底を図って ・募集開始時期の前進化(夏季開催) 昨年度より1か月程度前進化させた。 ・夏季開催 27名 冬季開催 22名 合計39名(97.5%)であった。	B	スケジュール的に厳しいことやカリキュラム内容の検討が必要である。	
		・受講者の満足度 80%以上	・オリエンテーション(講座前に実施) ・アンケート調査の実施 ・運営委託業者と調整	・オリエンテーションの実施 開講にあたって各講座の概要(目的)や講義の進め方・留意点などについて周知してきた。 ・アンケート調査を毎回実施し受講者の理解度を把握 ・アンケート調査結果をもとに研修内容を調整 その結果、満足度については、96%以上であった。	A	受講生の満足度等のアンケート調査を実施し、それ以後の講座に活かしていく。	
	(農産加工支援研修) ・受講者数	・受講者数の確保 2講座 15名	・農業者等への周知徹底	○普及センター、農政企画課、6次産業化サポートセンター等と連携した募集の周知を行った。 ・会議等において、研修成果や研修内容等について事例を紹介し、関係機関担当者等への周知を行い、農業者等への啓発を依頼した。 ・基礎研修 11名 ・応用研修 2組織(5名)、個人3名	A	普及センター、6次産業課サポートセンター、農政企画課等と連携し、農業者へ研修の周知を図る。	

目標	評価項目	平成30年度目標	目標達成のための方策	具体的取組及び結果	達成度	次年度の課題と改善策	評価コメント
5 農業者研修の充実		(基礎研修) ・基礎的知識・技術の習得 概ね理解した受講生の割合80%以上	・6次産業化の基礎的な知識・技術に関する講義・演習の実施(基礎)	○食品衛生、加工技術、歩留まり計算、原価計算、包装技術、ラベル作成等、農産加工の基礎的な知識・技術習得のための講義及び演習を実施。 ○県内の先進事例について、視察研修を実施。 ○HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強化研修を実施した。 ○毎回、受講後のアンケート調査を実施し、進捗状況を把握、理解度をチェックし、全員が講座内容を理解。	A	食品衛生法改正に伴う食品衛生の管理方法等の支援を行う。	
		(応用研修) ・商品につながる農産加工品の開発能力の向上 ・受講者1人(組織)1品目以上	・商品づくりと試作研究への指導 ・新商品開発能力を高める試作研究への指導	○商品化につながる試作品づくり及び新製品の開発能力のための知識・技術の指導を行い、習得できた。 ○個別計画作成指導を行い、計画策定ができた。 ○個別計画に沿って、試作研究演習を個別で実施、また、試作研究指導を実施し、技術習得ができた。 ・受講者全員、1品目以上試作品製造 ○関係機関と連携し、商品化に向けた新商品開発を行うための評価及び検討会を実施。 ○農産加工を取り入れ実施している先進事例について、視察研修を実施。 ○HACCPの制度化に向けた一般衛生管理等の知識・技術習得のための講義、演習を行う食品衛生強化研修を実施。	A		
		・農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化 ・研修に対する満足度80%以上	○農業青年クラブ員を対象とした各種研修等の実施 ○参加後の意向調査等の実施	○各種研修等の開催 ・役員理事会、三役会、各部会等の実施(毎月1回以上) ・各種研修会等へ、非加入クラブ組織への参加呼びかけ ・農業青年会議 1回開催 ・さが農業力向上セミナー 1回開催 ・さが農業「歴史・未来」展 マルシェを開催。 ・農業青年冬季のつどい 1回開催 ○研修後、参加者による意見交換会の実施。	A	・クラブ員の加入促進及び活動交流によるクラブ活性化を図る。 ・研修の充実による満足度の向上を図る。	
	・農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化 ・研修に対する満足度 やや満足以上の割合80%以上	○青年農業士を対象とした各種研修の開催 全体研修会の開催 先進地視察等の実施 県外研修等への派遣 農業士部会活動との連携 ○参加後の意向調査等の実施	○各種研修等の開催。 ・全体会、農業士との合同研修研修会 1回 ・先進地視察研修 1回 ・県外研修への派遣 3名派遣 ・農業士活動との連携 2部会 ○研修後、参加者による意見交換会の実施 ・農業経営の確立や地域活動への参画や外国人技能実習生等について意見交換を実施。	A	青年農業士活動の意義等について周知していく。		
	・農業者組織(農業青年クラブ、青年農業士、農業士)活動の活性化 ・研修に対する満足度 やや満足以上の割合80%以上	○農業士を対象とした各種会議・研修会の開催 ・役員研修会 2回 ・研修会の開催 農業士、青年農業士合同研修会 1回 九州・沖縄農業士研修会 1回 女性全体研修会 1回 各部会活動の実施(7部会) ○参加後の意向調査等の実施 アンケート調査の実施	○各種会議・研修会の開催 ・役員研修 2回 ・農業士、青年農業士合同研修会 1回 ・九州・沖縄農業士研修会 1回 ・女性全体研修会 1回 ・各部会活動の実施(7部会):延べ8回 ○参加後の意向調査等の実施	A	農業士の役割等理解を得ることが重要となる。		

※到達した学生の割合とは、農業実習の評価基準における技術評点80～62点(100点満点で)以上の割合を80%以上とする